

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		臨床工学技士科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		病理学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員		濱田 吉之輔	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》							
病理学を理解する							
《成績評価の方法と基準》							
期末試験にて記述試験を行う。試験の評価と出席状況を総合的に判断							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
カラーで学べる病理学／ヌーヴェルヒロカワ							
《授業外における学習方法》							
学習課題問題を毎回提示するので次回までに確認・理解をすること							
《履修に当たっての留意点》							
高校までの算数・理科の知識を再確認してください							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	病理学の概念と病因について理解することができる。		教科書	解剖生理学を理解しておくこと	
		各コマにおける 授業予定	病理学の概念と病因				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	循環障害について説明することができる。		教科書	解剖生理学を理解しておくこと	
		各コマにおける 授業予定	循環障害 塞栓・コラテラル				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	退行性病変について説明することができる。		教科書	解剖生理学を理解しておくこと	
		各コマにおける 授業予定	変性・壊死・アポトーシス・萎縮・過形成				
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	進行性病変について説明することができる。		教科書	解剖生理学を理解しておくこと	
		各コマにおける 授業予定	再生・化生・肥大・過形成				
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	良性・悪性腫瘍の違い、転移のメカニズムを説明することができる。		教科書	解剖生理学を理解しておくこと	
		各コマにおける 授業予定	腫瘍(良性・悪性) 腫瘍(転移)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	炎症について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	炎症		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な先天疾患を説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	先天性疾患(ダウンsyn・ターナーsyn・クラインフェルターsyn)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症状、病気の経過と転帰について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	発生学と病理		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	循環器の病理について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	循環器の病理		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の病理について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸器の病理		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	泌尿器、内分泌系疾患について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器、内分泌系疾患の病理		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	消化器、脳神経系疾患の病理について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器、脳神経系疾患の病理		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血液、免疫系疾患の病理について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	血液、免疫系疾患の病理		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感染症について説明することができる。	教科書	解剖生理学を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	感染症		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義内容についての総復習と重要項目について説明することができる。		
		各コマにおける授業予定	まとめ		